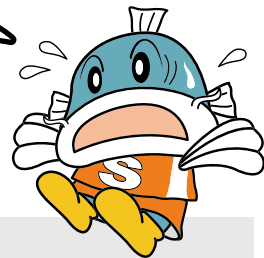


地震が起こったら普段の
家の中がどう変わるかイ
メージしてみよう!



地震発生後の
家の中

家屋の損傷、倒壊

家財の損失

ガラスの飛散

家具の転倒

出火

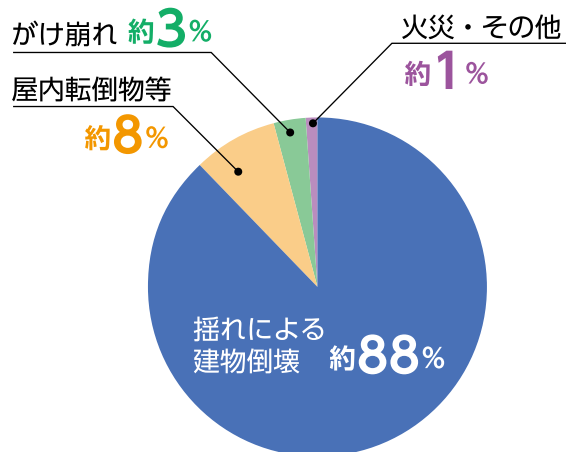
断水

防災豆知識④ 建物や、家具が凶器になる!?

地震が発生すると、強い揺れによって、建物自体が倒壊するおそれがあります。また、建物が無事でも、家の中のタンス・本棚などの家具が転倒したり、照明器具が落下するなどによって、大きな怪我をするおそれがあります。

地震によって発生する死者数を要因別にみると、その大部分が建物内で発生することが想定されています。

建物倒壊と家具の転倒等
が人的被害を受ける主な
要因なんだ。
家の中を安全な空間にす
ることが重要だなあ。



■ 図 想定死者数の要因別割合

※琵琶湖西岸断層帯地震case2(夕方発生)時
(平成25年滋賀県地震被害想定調査より抜粋)

1. 揺れを感じたら直ぐに

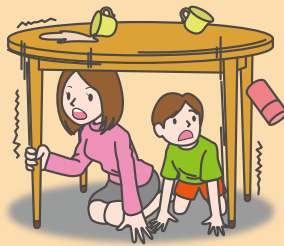
揺れから命を守るための行動をとりましょう!

地震が発生したら、まず揺れから命を守ることがなによりも重要です。揺れを感じたら命を守るための行動をとりましょう。

屋内にいたら

家の中では

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守りましょう。
- 裸足で歩きまわらないようにしましょう。
- 乳幼児や病人、高齢者などの安全を確保しましょう。



会社では

- 窓際や資料棚など、物が落ちてくる場所から離れて、机の下などに入って身を守りましょう。



学校では

- 先生や校内放送の指示に従いましょう。
- 教室内にいるときは、直ぐに机の下にもぐり、身を守りましょう。
- 窓や本棚から離れましょう。



エレベーターの中では

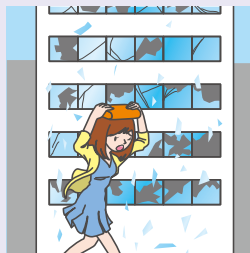
- 自動停止した階で降りましょう。自動停止しなければ、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出ましょう。
- 閉じ込められた時は、非常ボタンやインターホンで連絡をとり、救出を待ちましょう。



屋外にいたら

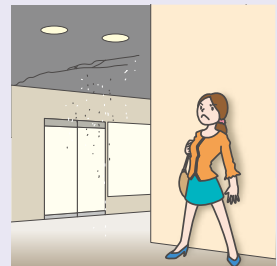
繁華街では

- ガラスや看板などの落下物に注意しましょう。
- 頭上からの落下物があるときは手荷物などで頭を守りながら、近くのビルなどに逃げましょう。



地下街では

- 柱や壁に身を寄せて、あわてずに揺れが収まるのを待ちましょう。
- 地下街のお店にいた場合は、頭を守りながら店を出るようにしましょう。



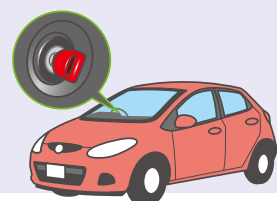
電車の中では

- 転倒や落下物に注意して、つり革や手すりにつかまりましょう。
- 座っているときは、足を踏ん張って上体を前かがみに、手荷物などで頭を守りましょう。



車の運転中では

- 道路の左側に停車し、揺れがおさまるまで車内ラジオなどで情報を聞きましょう。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ロックせず、車検証などを手元に持たせて、徒歩で避難しましょう。



2. 揺れがおさまったら直ぐに

揺れから命を守った後は安全を確保しましょう!

揺れから命を守った後も油断せず、次なる危険に備え、安全を確保する行動をとりましょう。

落ちついて 火の元確認 初期消火

- 火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 無理をしない範囲で消火を心がけましょう。



窓や戸を開け 出口を確保

- 揺れがおさまってから、避難ができるよう出口を確保する。



家で行動するときは、 こんなことに気をつけよう

- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- 瓦・窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



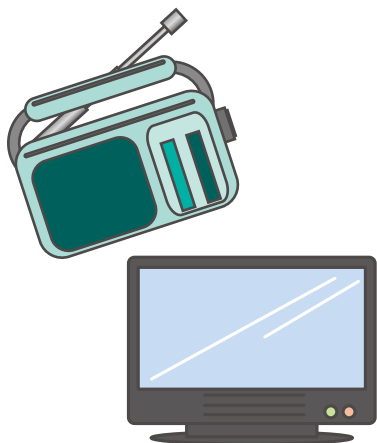
3. 揺れから命を守った後は

周囲の状況をよく確かめ、避難しましょう!

自分自身の命の安全を確保した後は、非常持ち出し品を準備して、多くの情報を収集したり、近隣・地域の方の安否の確認などを行いましょう。

正しい情報 確かな行動

- ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



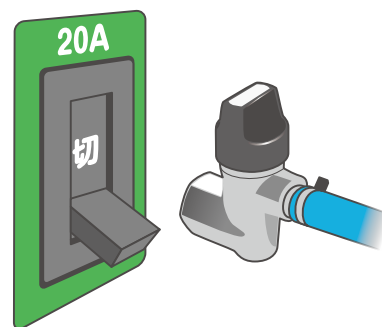
確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

- わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



避難の前に 安全確認 電気・ガス

- 避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



第5章

みんなで助け合う

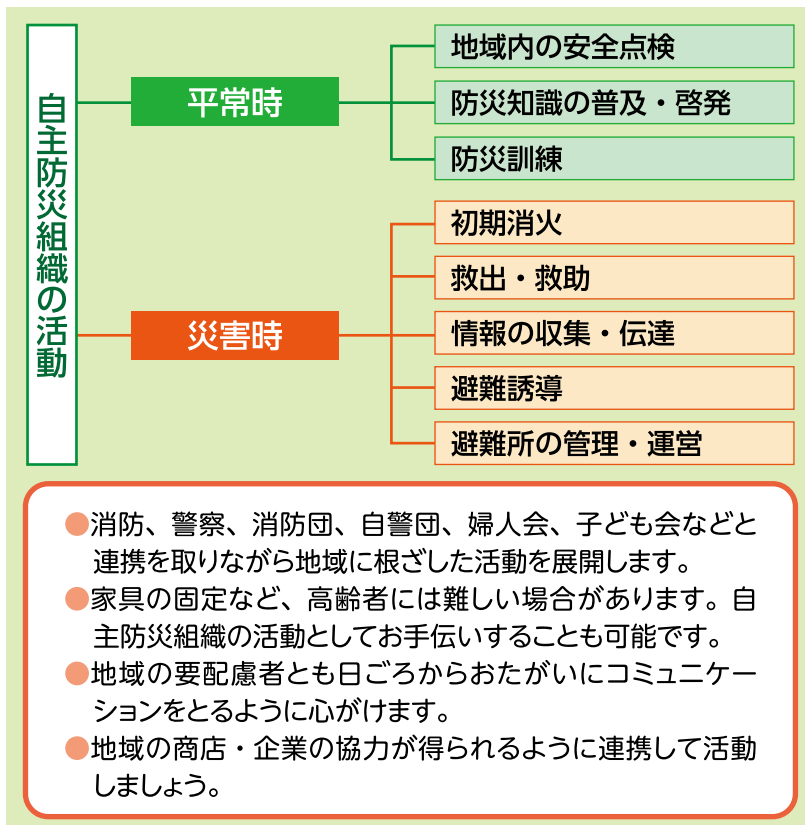
大災害時は、住民、地域、企業、行政が互いに助け合うことが必要です。また、避難の際や避難生活を送ることになった場合には、要配慮者（お年寄り、心身に障害のある方、妊娠中または出産直後の女性や乳幼児、外国人など）への配慮も求められます。

自主防災組織に参加しよう!

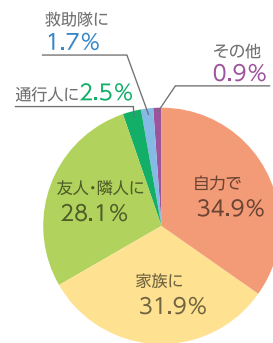
滋賀県では既に約87%程度の人が参加しています（全国平均は83%）

●自主防災組織とは…

「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えのもとに地域住民が防災活動に取り組む組織です。

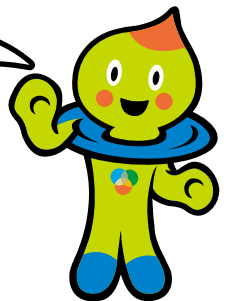


■ 阪神淡路大震災の救助割合



※兵庫県南部地震における火災に関する報告書（日本火災学会より）

阪神・淡路大震災では公的な救助により助かった人の割合は1.7%で、ほとんどの人は、家族や近所の人などに助けられているよ!



自主防災組織・町内会の底から

阪神・淡路大震災では、家族や隣近所によって生き埋めになった人が搜索され、生きて救出されたケースもありました。自主防災組織や町内会を通じて、家族と地域が顔見知りになっておくことが、互いの命を救い、助け合うきっかけになります。

- 地域の自主防災組織や町内会に加入しておきましょう!
- 地域で協力して、救出道具や医薬品、食料などを準備しましょう。
- 地域で行う防災訓練などの行事に参加しましょう。



避難所は自分たちで運営

避難所では、避難者が助け合って物資の配布や、清掃活動などをします。また、要配慮者には少しでも快適に生活できるよう配慮をします。

- 女性や子どもをはじめ、みんなのプライバシーに配慮しましょう。
- スペースの配置は、要配慮者の移動距離等に配慮し、割り振りましょう。

